

山陰仏社会報



第5号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第5号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局  
〒690-0002 松江市大正町443-1(本願寺山陰会館内)  
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351

第8回中・四国ブロック仏教壮年会員研修会



満堂の会場



意見発表の時間

「新体制で組織拡大を！」

山陰教区仏教壮年会連盟理事長 杉 本 健 治

浄土真宗本願寺派仏教壮年連盟が平成二十年四月一日付で発足した。振り返ってみると昭和三十七年頃より門信徒会運動が始まりそれに併せて仏教壮年会が少しづつ誕生しているが特に昭和四十八年の「親鸞聖人ご誕生八〇〇年、立教開宗七五〇年」の慶讃法要に併せ、第一回全国壮年大会が開催され、それを縁に多くの仏教壮年会が設立されてきた。そして昭和五十年に会議体としての「全国仏教壮年会議」が誕生した。その間門徒推進員の誕生、「門信徒会運動、同朋運動」が一本化され「基幹運動」として活動が展開されてきた。中でも仏教壮年は、基幹運動の中核となり、その運動の推進者となるということをやつてきたが、平成六年頃より仏教壮年会の更なる充実、発展を期すために、

仏教婦人会総連盟や少年連盟のように連盟化をしたらと言う声が出始め平成十五年、本山の基幹運動本部に仏教壮年会活動活性化に関する専門委員会が設置され、各教区においても仏教壮年会活動活性化に関する協議会が設置され、仏教壮年会活動の活性化に関するアンケート調査などを実施してきた。

本山としても壮年教化の手引きシリーズ「一通の手紙から」の発

行、仏教壮年会活動活性化推進講師等の派遣を行つてきて、会員の皆さんはもとより、多くの皆様のご努力とご協力があり、平成十九年十月十一日浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟の設立承認(基本立案第二九六号)となつてきたわけです。

私たちの山陰教区に目を転じて見ると寺院数四三九ヶ寺で、この内、約八十ヶ寺が無任職寺院という現実を見た場合この問題ひとつをとつても過疎地の中にあつて幾多の難問があります。仏教連盟になれば自主、自立、自営で運営をしていくわけですので、山陰教区と連携をとり、指導を頂きながら充実発展に努力をいたしたいと存じます。連盟化によつて会費の負担等のこともあり平成二十年度は会費の見直しをしたいと思います。そして登録の基本は寺院仏教壮年会ですが地域事情等で単位の登録が出来ないところは近隣寺院と合同で、又は組として登録してほしく思っています。真の浄土真宗本願寺派の仏教壮年としての日暮し生活をしているだろうか、目を外にばかり向けていないだろうか、自分の心の内を観て行動を起こし、そして会員の皆さんと、各寺の住職さんの協力を頂きながら微力ですが努力いたします。

## 仏壮拡大はキッズ・サンガとともに

お寺再生に向けて新たな動きを…

基推仏壮組織拡大専門委員長 本多昭人

「仏壮拡大」が教区基幹運動の議題に上ったのは三年前のことでした。その趣旨は「宗祖七五〇回大遠忌法要を目的に仏壮拡大を図り、宗門基盤の強化につなげる」というもので、高齢・少子化や若者の寺院離れが深刻化し、寺院基盤の弱体化とご法義相続に危機感を募らせている宗門人にとって、この施策はある意味インパクトを与えたと記憶しています。

大遠忌法要までに仏壮結成率五〇%を目指すとともに、その取り組を「一点突破」として総代、仏婦、少年などの組織教化活動のすそ野を広げ、宗門全体の活力をアップしようというのが「仏壮拡大」のネライなのですが、現場の状況はというと、なかなか思うにまかせないというのが実情です。

### 「仏壮拡大」への誤解

「仏壮拡大」が進まない背景には誤解もあるように思います。たとえば最近、「うちの組は八〇%の結成率だから関係ない」という住職がおられました。この組は数字だけ見れば確かに目標を達成しています。また、既に仏壮が結成

されている寺院の住職には、いまさらとの思いもあるようです。

しかし、現在の仏壮活動には、はたして問題はないのでしょうか？以前実施された仏壮アンケートで指摘されていた「活動のマンネリ化、空洞化」や「会員の高齢化」といった問題は今も解決されないままです。仏壮に限らず歴史も古く、結成率も高い仏婦にも同じような問題がありますし、若者の寺院離れを憂慮しながら、肝心の青少年教化は手づまりの状態です。そうした中で「仏壮拡大」による組織教化の再構築、さらには寺院再生をも視野に入れた今回の施策は教区、組、寺院を挙げて取り組むべきことといえます。

とはいうものの、新しく仏壮を結成するにはかなりのエネルギーが必要で、「うちのお寺ではとても無理」と考える住職が多いかも知れません。しかし、今のままのお寺でよいの？・といわれると、ほとんどの住職は「何とかしなければ」とも思っているのです。

### 手がかりは子どもたち

そこで、何を「仏壮拡大」の手

がかりにするかが重要になります。その手がかりになるものこそ、「仏壮拡大」とほぼ同時期に打ち出された「キッズ・サンガ」構想ではないかと思えます。「キッズ・サンガ」とは「お寺を子どもたちの居場所にしよう」「子どもたちの声が響くお寺にしよう」という取り組みのことですが、実は「仏壮拡大」と「キッズ・サンガ」は決して別のものでなく、「ポスト大遠忌」を見ずして寺院再生をめざすという意味で、同じ方向性をもっています。

そこで私の提案ですが、各寺院の壮年の皆さんが地元の子どもたちに声をかけ、お寺へ誘ってみてはどうでしょうか。住職には場所(本堂)を提供してもらい、いっしょに勤行をします。そして壮年の皆さんを中心にお参りの作法やゲーム、讃歌、昔の遊びなど、さまざまな活動を展開し、やがては壮年のネットワークを作るのです。

子どもたちとその両親、祖父母がふれあう場所になることでお寺はよみがえり、お念仏が伝えられていく。「仏壮拡大」への第一歩として、まずはキッズ(子ども)から始めてはいかがでしょうか。

※制度の上から仏壮活動活性化をめざすため、現在「連盟化」が進められています。

## 「信仰生活」を

くるとかえよう

仏教社年会連盟常任理事

下迫紀弘

「連盟化」はその実、「仏壮」が「ひとり立ち」にあたり、「念仏」信仰を選びとるべきことだった、と私は思っている。

「念仏」とは、人びとを不安や苦悩から救済したい、という仏さんの慈悲に「わたし」が応えること、と思うから。つまり、「親鸞さんの教えに学びわたしと宗門・僧侶の体質を改め、社会の問題に取り組む」基幹運動は、仏さんの慈悲にずばり応える営み。それを担おうと決断したのだから。しかし、この選びは震え震えだった。

なぜか……。仏さんから慈悲に込める営みをしているか、問われ続けることなどとても辛い、と「仏壮」が感じとつたからだろう。

また「運動」が、みんな苦悩でつながり、慈悲にすぎない「同悲同苦」の仲間なんだ、と体得できる場とは信じられなかったからでもある。

宗門は、仏さんの慈悲を宗主の「恩徳」にくるとすり

**全国仏教壮年会会議・  
幹部養成研修会に参加して**  
 仏教壮年会連盟副理事長 森山陽治

研修会は去る三月一日から二日間全国の各仏教壮年会連盟四十一名が集い、宗務総合庁舎において開催され、開会式で全国仏教壮年会議長の挨拶で、全国仏教壮年会連盟の発足にあたり、基幹運動を強力に推進するため幹部として

**本山仏壯連盟化に向けての決意**  
 仏教壮年会連盟副理事長 泉原省二

私は昨年春から仏教壮年会常任理事として山陰教区基幹運動構成団体に参画させていただき光栄に思っています。諸会議に出席して本山が仏壯連盟化に取り組んでおられる事を知りました。聴聞へ友を誘い仲間を増やすことが私の役職に求められた第一歩と感じました。会議資料で拝見すると出雲部に比べて石見部の門徒推進員が少ない事に気付きました。組織拡充の為に私がまず門徒推進員の役割を得る中央研修を受講する決意を致しました。本年二月八日から本願寺聞法会館で開催された三泊四日の研修を全国五十四名の仲間と共に受講し改めて寺院の教化組織、組・教区の基幹運動の推進にあたることを決意しました。中央研修の三日目の夜には参拝会館で

の意識高揚と自覚を深め仏壯活動の推進者となっていたきたいとの挨拶。

続いて組織教化部から連盟化の狙いと題して講義、仏教壮年会の更なる発展と会員による自主・自営の活動をめざし発足したと語られ、続いて中央基幹運動推進相談員が、基幹運動推進における仏壯の役割として、運動の目的は御同朋であるが、現実には乖離しておりそれが解決するため運動が提唱さ

決意表明式が阿弥陀如来様の前で厳粛に行われましたがその式場において私は門徒推進員の輪を広げることと通夜の意義を正しく認識することにとめますと表明しました。本山で誓ったことを忘れないで仏壯連盟の強化と浄土真宗のみ教えの繁盛のため微力を尽したいと存じます。 合 掌

**地域とお寺の「接点」づくりを**

仏教壮年会連盟常任理事 寺井泰允

連盟化に向けて仏壯の広がりや期待する一方で、現状では各々の護寺が難しくなるのではないかと懸念も隠せません。少子に加え、若者のお寺離れ等の悪条件もそれに追い打ちを掛ける気がします。又、私達が目指すべき仏壯の在り方についても、底辺から湧き上がって来るような動きがある状態が理想ではないかと思うのです。

れた旨語られた。続いて、法座が連盟の発足の意義と役割の検証というテーマで四班に分れ話し合いを持ったが、その中で本山の指導と任職の姿勢が大切だとか計画は立てるが検証をしない等々沢山の意見があった。二日目は班別発表とパネルディスカッションが行われた。この度研修会に参加させていただいたが、交流の中で、拡充と活性化の困難性を痛感した。

そこで、何に取り組むかですが、真に「開かれたお寺」にするために、お寺を身近に感じてもらう必要があると思います。私の幼い頃、お寺の境内は誰もが認めた遊び場でした。幼い頃から慣れ親しんだものへの愛着は大人になってからも無くなりません。お寺を美しい状態で保つ事も必要ですが、それ以上に大切な「お寺の役目」があると思うのです。

そこで、他団体のボランティア活動に習い、又は連携して子供育成の行事にお寺を利用して頂いたり、各々のお寺独自の「お楽しみ行事」計画する等、まず地域とお寺の接点を作って行く必要があるのではないのでしょうか。

かつて、お寺は住民にとって生活の一部でした。そんな時代に少しでも近づけるよう、私達は、魅力あるお寺作りのお手伝いをしていかなければならないと思います。

替え、門信徒に向かつてもつぱら、代々宗主への「報恩謝徳」を命令し、儀式もすべてこの流儀だ。苦悩の原因である、私たちが身につけた社会道徳や「自己ちゅう」、まして社会の矛盾には目をつぶれ、とすら説いた。これで宗門が「運動」しなさい、と言っても私たちにできるはずはなく、あるのは迷いだけだ。

「報恩謝徳」から、宗門護持と敬服の念」は生まれても、私たちが、「宗門の体質や社会の矛盾に向ける目」を開くことはないからだ。

びっくり仰天。「運動」を唱えた宗門は、これを「念仏」信仰の営みにしたくはなかったのだ。

「ひとり立ち」とは、私たちが宗門（主）ではなく、親鸞さんに習う信仰生活をつくる、という決意でもある。

私は、苦悩を救済しようとする仏さんの事業に実践力をもって参加する、それが「念仏」だと「重誓偈」から教わった。これなら私たちは迷うことなく「運動」できると思う。あなたもこれまでの信仰生活をくるとかえて「重誓偈」の信仰生活の意志を固めるときではありませんか。

## 「教区壮年の集」に参加して

因幡組 光輪寺 二村善信

昨年七月八日島根県大田商工会館において「教区壮年の集」研修会が開催されました。

本研修会に参加して、特に印象に残ったことは現在、本山が仏教壮年会の結成を推奨しているところであり、その結成の過程において、いろいろな困難を克服して誕生に至った寺院の事例や又、とかく近年お寺へ近づく御門徒が少なくなつたとよく耳にしますが、反して参拝者が増えている寺院の事例等建設的な発表を拝聴して、いづれも成功の裏では門徒と僧侶が共に弛ない努力があることに感服した次第です。

この研修会は既に約十年前から「単位会長会議」として各単位仏社会長が相互の情報交換や研修会等を目的として毎年開催して参りましたが、近年参加者も減少傾向にあり、十九年度は男女共同参画の観点からも、広く全員に呼びかけて共に問い、共に聞き、共に語り合う標記名称に改めたところであります。

幸いにして、百人を超える参加者で当初の目的を達成することが

できました。

この度の研修会を通して、ややもすると従来の事業を継続するのみに走りがちであるが、時には事業内容を点検すると共に、改善していく必要性を強く痛感させられました。

いよいよ、平成二十年度から全国仏教壮年会も連盟化されます。これを契機として、私達仏社会員は実のある自主、自営の活動が期待されるものと思えます。

### 「全国仏社会議：幹部養成研修会」を終えて

因幡組浄善寺仏社会長 竹内紀彦

基幹運動の推進と仏壮活動の活性化にむけて……をテーマとして全国の教区より三十三名の仏社会員が京都本山に集合し研修会が実施されました。

まず講師の季平博昭先生の講義があり山陰教区前下迫理事長(前会長)が提案された仏壮連盟化への問題提起についての話があり、仏壮活動について「参加」ではなく「参画」することにより身につく経験が得られる。ぜひ何事も計画段階から積極的に参画して各教区、各組・各単位寺仏壮の活性化

に努力してほしい。

そして基幹運動は教団に所属するすべての人びとが、私と教団のあり方を見直し、一人ひとりの苦悩に共感し、社会の現実に向き合つて歩むことで、御同朋の社会の実現を目指す運動です。

「基幹運動」がめざすもののひとつに……「還る家」……「還る寺」……「私の寺」

どんなちつぽけな自分でもかまつてほしい、相手にしてほしい、「必要な存在」として肯定してほしいと思う。ゴチャゴチャした人間関係があれば善し悪しに関係なく人は手の届くところに必ずいることがわかる。絡み合えば互いを「必要な存在」と肯定しあえる。そして絡み合いつつ、弱音や愚痴をはいたり、聞いたりしてやり取りできる空間を「還る家」とイメージすればあなたには「還る家」がありますか。

還る家(寺) || home(ホーム) || (my home temple) || 「私の寺」

としての仏教壮年会の関わりや活動はどうあるべきか考えてください。との基調講演がありました。

そして班別に仏教壮年会の活性化に取り組んでいることについての悩み、成功事例、失敗事例、活性化にはどうしたらよいのか、お

寺に寄つてもらうにはどうしたらよいかなど事例をふくめて話し合い法座を行いました。

いろんな意見が出ましたが、ある仏壮が「寺でかぶと虫を育てている。子どもたちと一緒に飼育しているが、子どもたちが親と一緒に状況を見に来ているので寺がとにもにぎやかである」。

「住職と相談して夏休みに子どもたちに夕刻の鐘突きを教える」との話もできました。

何かお寺でないといけないものをやる。それも考えてみてはとの宿題も出ました。

教区や組、単位仏壮などにおいてはそれぞれの地域差、組織の大小、などさまざまであり一様に活動するのは難しい面もあるが、それぞれわたしの組・わたしの寺でできることを住職とともに取り組むこと。

また、教区、組、寺、地域においての出来事や日々の生活のなかでの身近な事柄を一人でも多くの会員に寺報や仏社会報などにより情報発信して、寺・仏壮活動を身近に感じてもらえるよう、そして参画してもらえよう努力する必要性を感じて研修を終わりました。

合 掌

H 18・9・3

# Sô-Sô 各組 代表理事 決まる

平成20年度からの教区仏教壮年会連盟の  
新役員が選出されました。  
理事長、副理事長二名、常任理事七名を  
含む二十六名は次の方々です。  
(紹介順は寺院名簿の組順)

 飯石南組 一念寺 柳原陽一	 副理事長 神門組正蓮寺 森山陽治	 出雲組覚専寺 江角明夫	 松江組善徳寺 白根正義	 三瓶組照善寺 小谷正美	 常任理事 大田組真浄寺 下迫紀弘	 石東組立善寺 菅本了道	 常任理事 飯石北組福泉坊 大崎強
 佐波組 永田三日人	 副理事長 大家組龍威寺 泉原省三	 仁摩組浄円寺 柿田義哲	 大森組善正寺 津村信隆	 常任理事 邑智東組円浄坊 岩戸秀幸	 常任理事 市山組長玄寺 森田勝秋	 千須賀組照円寺 波多野祐康	 川本組法隆寺 福谷善彦
 三隅組専称寺 田中城広	 福屋組浄光寺 森脇悦朗	 理事長 浜田組真光寺 杉本健治	 江津組円勝寺 古川忠光	 常任理事 伯耆組香玉寺 中本暁美	 常任理事 因幡組浄善寺 竹内紀彦	 鹿足組教西寺 大畑正隆	 常任理事 益田組泉光寺 寺井泰允

山陰教区仏教壮年会連盟設立お  
めでとうございます。同宗門の念仏  
者の一人として一言お祝い申し上げ  
ます。これからも、基本的には所属  
する寺院を基盤として活動されるこ  
とは、門徒推進員と変わりはないと  
思います。同様の活動と実行を期待  
することです。

会員お一人おひとりが山陰教区  
仏壯連盟と密に連携が執れ、なお  
一層の組織として、躍進・進展する  
ことを願うこととございます。よ  
く、仏壯も門推でも年齢のことが  
会議等で議題に採り上げられます。  
私は会員になった人は、一生涯会  
員で聴聞を重ねて自らを「めざめ」  
ていつて頂きたいと思えます。

しかし、若い人を会員に勧誘す  
ることは、私たちの一番の課題で  
これからも、大いに協力し合って  
推進していきたいと願うこととご  
ざいます。私たち自身が聴聞し、  
お寺参りを重ねて若い人を牽引し  
ていきたいと思えます。宗門が目  
的としている基幹運動推進こそ、  
仏教婦人会と共にお互い協力し  
合って達成していきたいと念ずる  
こととございます。

合掌

門徒推進員の立場から  
仏壯連盟に思うこと  
山陰教区門徒推進員連絡協議会長  
松浦 靖

### 男女共同参画バンザイ

明宗寺仏教女性会

楠栄美子

平成十九年第八回中・四国ブロック仏教壮年会員研修会に「縁」あつて、私達の仏教女性会が参画させて頂き感謝申し上げます。この「縁」を結ばせて頂いたのは「ほとけの子育成基金」浄財支援活動「なもなもクッキー」販売でした。教区仏壮役員さんより、是非活動してみないかと声がかかり、私達はこの活動を伝えたく、すぐに承諾しました。当日は受付も応援することになり、「今日は受付も応援するにこやか顔。」とにこやかに顔。そしてクッキー販売活動を



珍しそうに眺め、行ったり、来たり、ついに二袋下さいと、お買い上げ！「わしらの所にも、こんな人があるが今度うちに来た時は、こうてえや」と言う方、いろいろな会話がありました。おかげさまで完売し「ほとけの子育成基金」へ浄財を届けました。この会に参画して感じた事は、まさしく自分達の「会」であつて、一人ひとりが責任を持って、生き生きと活動しておられる姿がフレッシュで素敵でした。親鸞聖人七百五十回大遠忌にむけて、御同朋の社会をめざして「共にいのちかがやく世界へ」仏壮・仏婦が手をつなぎ、各教化団体のリーダーとなつて共に歩んでゆく事を念じます。

### 「ブロック研修」に参加して

大田組真浄寺仏壮

竹本嘉人

小林顕英先生より「世の中、安穩なれ」をテーマに基調講演があり、「私たちは生活の中でお念仏をよりどころにしているか」「私を束縛しているものは何か」についての法話のなかで、葬儀にかかわる枕経・通夜・旅装束・中陰や迷信等、仏事作法の話の聞いて、浄土真宗のみ教えに学ぶ者として迷信にとらわれてはならない、と認識を新たにした。

各教区代表の意見発表では、お



寺を聞法の場として「聴聞」を活動の支えとし、お寺とのかかわりを強くしているとの発表に、過疎化・高齢化による会員の減少等厳しい逆風をはね返す熱意と、お念仏に対する意気込みが伝わってき刺激をうけた。

今回の研修に参加し、改めて真宗門徒のお念仏とは何か、思いを深くしたが、これからこの思いを活かし、新連盟の活性化と充実に取り組んで行こう、と私は思う。

### 編集後記

「世のなか、安穩なれ」をテーマに仏教壮年会連盟が、平成二十年四月より結成になりました。平成十九年は第八回中四国仏社会員研修会に二百五十名なる参加いただき盛大な研修会になり仏教壮年としての今後の取組によく理解がなされたことは仏壮組織の拡充であり、山陰教区的全組が組連盟を結成して未加入の寺院をなくして、浄土真宗の門徒として輪を広げ、聴聞の機会を多くとらえて行くことです。

仏壮の一人ひとりが生活実践の實行と、お念仏の毎日を過しましょう。本号の発行にご協力を頂いた皆様

合掌

(松江組 明宗寺 早崎 稔)